

## (様式2-2) 令和7年度「校内サポートルーム(KSR)研究指定校事業」成果報告書

### 1 指定校・指定校群 ( 三豊市立三野津中学校 )

「研究主題」 「長期的視野に立った社会的自立を目指すKSRの在り方」

～「君のことを気にしているよ」というメッセージとしてのKSR～

### 2 実施内容

#### (1) 本校の現状と課題

- 思春期の問題行動の多様化（リストカット・吃音・場面緘黙等）
- 発達障害の二次障害・愛着障害との混在、不安障害・対人恐怖症・気分障害等
- 養育環境の複雑化や多様化への対応としての各関係機関との連携の必要性

#### (2) 専門家のアセスメントによる適切な見立てと対応

- 小中連携協議会と校内研修を兼ねた事例検討会でスーパーバイズを得て、早期からの適切な理解と対応を小中連携して行っていく。
- 専門機関（医療機関）・関係機関（支援センター）・専門家「スクールカウンセラー（以下SC）  
スクールソーシャルワーカーSSW（以下SSW）」との連携を図る。
- 各生徒の状態を見てSCや医療と連携し、それをもとに不登校対策委員会で対応を諮る。

### 3 成果

#### (1) 校内サポートルームにおける児童生徒の様子

- 小学校で不登校であった生徒が、KSRが設置されて登校できる日が増えている。（一年生2名・二年生2名）KSRで給食を食べることを楽しみにしている生徒も複数名いる。
- 専門機関やSCと連携し、小学校時代から「支援カード」を作成し共通理解を図ることで、全職員が生徒理解を深めて適切な対応をしようという雰囲気が育ちつつある。
- 一人ひとりの実態に合わせて個別最適な支援を模索しており、徐々に健康度が改善し学習にも興味が出てきている。具体的には、中学1年時はKSRで過ごし中学2年2学期から教室復帰ができた男子生徒や、修学旅行参加を目指して支援センターから週4日KSRに通えるようになった中2女子生徒がいる。2名とも小学校では不登校であった。
- 小学校時代も含め、どの生徒も昨年度より登校日数が増えている。またKSR使用開始時は、ほとんどが保護者送迎であったが、徐々に自転車登校ができる生徒が増えてきた。

#### (2) 校内サポートルームにおける活動及び支援の工夫

- ① 登校しやすい環境にするために、登下校の動線と時間を工夫する。
- ② 専門家との連携した対応を記載した支援カードの作成と定期的な周知により、全職員への共通理解をはかる。
  - \* 対人恐怖・対人緊張の生徒が多いので、低刺激で肯定的なあたたかい、ねぎらいの言葉を心がける。積極的な肯定的対応をする。
  - \* 活動内容は、本人興味の持てる軽作業などから始める。
  - \* 「先生は私のペースを守ってくれる」という安心感と信頼関係の形成。
  - \* 無理のない目標を決めて、自分の口から言えるようにし、頑張りをシール等で視覚化する。
  - \* KSRの利用の条件としてSCと本人・保護者の面接を必須とし、定期的に面接を行う。

#### (3) 総括

- 小中連携事例検討会等の機会を生かして、より早期から拗らせることなく教職員全体の生徒の理解を深めることで、改善しつつある生徒が増えている。
- 専門家の見立てによるアセスメントがまだ十分でなく、早期（幼少期）からの適切なアセスメントと対応の必要性を感じる。
- 教職員の多忙感や疲弊により、効果的な場となりにくいことがある。また、専門的な知識を持った人的充実が望まれる。
- 家庭に対してのサポートの困難さを感じている。効果的なアプローチの方法を継続して模索する必要がある。